

令和6年度 シラバス 【世界史探究】

11 新潟県立新潟翠江高等学校（通信制課程）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
選択	4	12	4	2
教科書		学習書・その他教材		
世界史探究(東京書籍)		歴史風景館世界史のミュージアム(とうほう)		

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①生涯にわたって自ら意欲的に学び続け、目標に向かって努力する態度を育成します。</p> <p>②互いの人権や考えを尊重し、命を大切にする心と行動力を育成します。</p> <p>③社会的・職業的自立に必要な勤労観や職業観を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行う～</p> <p>①多様な生徒の学習歴や興味・関心に合わせた科目選択ができる教育課程を編成します。</p> <p>②思考力・判断力・表現力の獲得を目指した、学びを充実させる丁寧な面接指導(スクーリング)を行います。</p> <p>③生徒が自学自習しやすい報告課題(レポート)を作成し、生徒の学びを深める丁寧な添削指導を行います。</p> <p>④放送視聴や平日校外スクーリングなど、通信制の特徴を活かした多様な学び方を促します。</p> <p>⑤コミュニケーション能力の伸長を図るため、生徒交流会や運動会、体験学習等の特別活動を行います。</p>

学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、歴史的な見方・考え方を働かせながら、課題を追求したり解決したりする活動を通し、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習内容

- ・古代文明の出現/西アジアと地中海周辺/ (第1回レポート)
- ・西アジアと地中海周辺/南アジア/ (第2回レポート)
- ・東南アジア/東アジアと中央ユーラシア/アフリカ, オセアニア, 古アメリカ/イスラーム世界の拡大と繁栄/ (第3・4回レポート) ・中世ヨーロッパ/ (第5回レポート)
- ・中華世界の変容とモンゴル帝国/インド洋海域世界の発展と東南アジア (第6回レポート)
以上, 前期試験範囲
- ・大交易時代と世界の一体化/ユーラシア諸帝国の繁栄 (第7回レポート)
- ・主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大/国民国家と近代社会の形成 (第8回レポート)
- ・世界市場の形成とアジア諸国の変容/アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行第一次世界大戦の展開と諸地域の変容/ (第9・10回レポート)
- ・国際協調体制の動揺と第二次世界大戦/第二次世界大戦と戦後の東アジア/ (第11回レポート)
- ・冷戦の世界化と国際制度/冷戦の変容・終結と経済のグローバル化/21世紀の地球的課題と人類社会/21世紀の地球的課題と世界史 (第12回レポート)
以上, 後期試験範囲

学習方法

- ・レポート
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について諸資料から適切かつ効果的に調べまとめる技能や歴史的諸課題と現代とのつながりを考察し、その解決を視野に入れて構想する力を身につけていきます。教科書、資料集、補助プリントを最大限に活用し、地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら、歴史的な見方や考え方を身につけてください。また、世界史探究の講座はありませんが、NHK高校講座の歴史総合、世界史などは、学習内容を理解する上で参考になると思いますので、視聴してみるのもよいでしょう。
- ・授業
レポートの内容に沿った、学習を補助するためのプリントを使用しスクーリング(授業)を進めます。教科書や資料集などだけではわからない様々な局面からレポートの内容を説明することがあるので、より深い理解を目指して積極的にスクーリングに参加しましょう。

レポート，教科書，資料集は必ず持参してください。遅刻，私語等は厳禁です。
 ・試験
 レポートの内容から出題します。教科書や解答例などを参考に，しっかり学習しましょう。

評価の観点の趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について，基本的な事柄を理解するとともに，世界の歴史に関する諸資料を収集し，適切に選択してレポートを作成している。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象の意味や意義，特色などを，時期や年代，相互の関連や現代とのつながりなどに着目しながら多面的・多角的に考察し，レポートを作成している。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に，歴史的事象に対する関心と課題意識を高めながら主体的に探究し，レポートを作成している。

評価方法		
各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分に満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

担当者からの一言
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象に関する見方，考え方を深める探究活動により，日常生活の事象の捉え方がこれまでとは違ってくると思います。意欲的に学習に取り組みましょう。